

氏名	あさ ひ かつ ひこ 朝 日 克 彦	職名	准教授	就任年月	2023年(令和5年)9月
【学歴】	<p>1995年3月 広島大学文学部史学科地理学専攻 卒業</p> <p>1997年3月 東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻 修士課程修了</p> <p>2004年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻 博士後期課程修了</p>				
【取得学位】	博士(地球環境科学)				
【職歴】	<p>2008年 立命館大学文学部 助手</p> <p>2009年 北海道大学大学院環境科学院 特定専門職員</p> <p>2010年 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任講師</p> <p>2012年 信州大学山岳科学研究所 助教</p> <p>2016年 ネパール、トリブヴァン大学理工学部トリチャンドラ校 特任教授</p>				
【専門分野】	<p>地理学</p> <p>環境動態論</p> <p>山岳科学</p>				
【研究課題】	<p>山岳科学の体系化</p> <p>山岳地の比較動態地誌</p> <p>高山帯の環境動態</p>				
【担当科目】	<p>人文地理学</p> <p>自然地理学</p> <p>地誌</p> <p>日本地域形成論</p> <p>地域と文化</p> <p>論理的思考C(地域の論理)</p>				
【学会・社会活動】	<p>日本地理学会 ジオパーク対応委員</p> <p>東京地学協会 専門家紹介委員</p> <p>北海道地理学会 幹事、編集委員</p> <p>日本雪氷学会</p> <p>地理科学学会</p> <p>ネパール地質学会</p> <p>ネパール水文・気象学会</p> <p>国際雪氷学会</p> <p>ユネスコ、世界ジオパーク認定現地審査員</p>				

【主な研究業績】

区分 (単・共別)	著書・論文名等	発行所・掲載誌・発表学会等	発行・発表 年 月
著書 (共)	フィールドワークにおけるマスメディアとの 邂逅、マスメディアとの齟齬	『FENICS 100万人のフィールド ドワーカーシリーズ第6巻： マスメディアとフィールド ドワーカー』古今書院	2017年8月
著書 (共)	山岳氷河ほか14項目	『地形の辞典』朝倉書店	2017年2月
著書 (共)	氷河の分類ほか3項目	『新版雪氷辞典』古今書院	2014年3月
論文 (共)	ヒマラヤのテクトニクス	『地質学雑誌』123巻	2017年7月
論文 (単)	2014年9月27日御嶽山噴火当日の救助	『登山研修』32巻	2017年4月
論文 (単)	学術交流協定にもとづく途上国大学院教育の 支援—ネパール、トリブヴァン大学における 地形学教育—	『地理学論集』92巻	2017年1月
論文 (共)	Glacier area shrinkage in eastern Nepal Himalaya since 1992 using high-resolution inventories from aerial photographs and ALOS satellite images	『Journal of Glaciology』	2016年4月
論文 (単)	空中写真判読による中部山岳の超年性雪溪の 分布と動態	『国土地理協会学術研究助成報 告集』2巻	2016年9月
論文 (単)	噴火時の避難行動—突発事象への対応を考え る	『地理』84巻2号	2015年1月
論文 (単)	間近で見た御嶽山噴火	『科学』84巻	2014年11月
論文 (共)	Temporal Changes in Elevation of the Debris- Covered Ablation Ares of Khumbu Glacier in the Nepal Himalaya since 1978	『Arctic, Antarctic, and Alpine Research』43巻	2011年5月
論文 (単)	Equilibrium-line altitudes of the present and Last Glacial Maximum in the eastern Nepal Himalayas and their implications for SW monsoon climate	『Quaternary International』212 巻	2010年1月
学会発表 (単)	High aptitude for UNESCO Global Geopark implementation in Nepal	2nd International Sustainable Mountain Development and Tourism Conference	2023年10月